

日本統治期の台湾での刊行物 ——日中言語交流の資料として

王 敏東

〇、はじめに

新漢語における日中の交流については、沈（1994）や陳（2001）等が19世紀末・20世紀初に刊行された英華辞典、百科全書の辞書類などの資料を大いに利用し、その経緯を相当明らかにした。ただし、上記の沈（1994）、陳（2001）を含む多くの研究では台湾についてほとんど触れられていない。まして、台湾の資料がこの方面の研究に用いられることは従来ほとんどなかった。しかし、台湾は1895年以前は清の一部であり、1895年～1945年は日本の殖民地となったが、1945年以降再び中国語社会に回復してきている。このような、いわば中国と日本の間に立たされるという歴史を辿ってきた台湾が日中の言語交流に何の役割も果たしていないとは考えられない。では、その役割は如何なるものであろうか。特に、日本から中国に逆輸入された「新漢語」が大量に生まれた19世紀末から20世紀前期にかけて台湾で刊行された資料は、日中語彙の交流の研究にどのようなヒントが与えてくれるだろうか。そのような点について探求するため、王・許（2005a、2005b）、王（2006）、王・蘇（2006）など一連の関連研究では、台湾の日本の殖民時期に刊行された資料を使い、日中の語彙交流における台湾の位置付けを試みた。王らは資料として新聞、教科書、論文集等を使用しており、中にはコーパスの形になっているものも含まれる。

日本の殖民時期に台湾で用いられていた教科書については、前田ら（2005）が綿密な調査研究がある。語学研究資料の確認・保存に多大に貢献したと思われる。さらに、日治時期『臺灣教科用書国民読本』をはじめとして、日本の殖民時期に台湾で用いられていた教科書は最近復刻されつつある。これらの資料を利用して、台湾ではたとえば許（1996など）、呉（2003）、周・許（2003）などが歴史的な研究を続けており、日本でもたとえば中田（2004）が近代語資料として「…朝鮮半島をはじめとする日本の統治にかかわった地域で著述・編纂された多くの言語資料も同様に日本語資料として組み込んでいく必要性を感じている。」と指摘している。

他方、約同時期の資料をコーパスにした日本の動きとして、たとえば田中（2006）がコーパス資料の『太陽』（原版明治時期）を利用し、「敏感」という語の成立の裏には、対義語「鈍感」（古くは「鈍漢」）という既存の語、または類義語「鋭敏」との使い分けなどのことが関

連していると指摘した¹。したがって、大量のデータをすばやく処理できるコーパスがこのような語史の研究にたいへん役立つことを証明している。

以上の事情に基づき、本稿は台湾における日本の殖民時期に刊行された資料——特にすでにコーパスにされているものを紹介したい。これらの資料の価値・意義を十分生かせるため、今後より多くの研究に利用されることを願うものである。

まず電子版（コーパスにされているものも有り）が入手できるものから述べる。

一、電子版（コーパス）のある資料

「新聞」、「学術論文集」、「その他」の3つの部分に分けて進める。

（一）新聞

①『臺灣時報』

『臺灣時報』（1898～1945年）は台湾の日本統治時期に、総督府によって発行された日本語の機関誌である。基本的には日本語の資料であるが、1899年9月20日より「漢文欄」が設けられている。当時の台湾の、政治、産業、農業、貿易、交通、軍事、教育、警察、技術、工芸、文芸などの論文、統計資料などが収録されている。また、台湾にいた日本の知名作家の俳句、詩、小説なども入っている。字・語の検索ができるし、原版はPDFで見られる。

②『臺灣日日新報』

『臺灣日日新報』（1898年～1911年）は台湾における日治時期の官報である。その発行時間も発行量も当時台湾最大の新聞だとされている。そこに掲載されている記事、広告などいずれも当時の台湾の一般的な状況を反映していると思われる。2006年現在公開されている電子版は、日にち検索で原典をPDFの形で見られるが、語彙などを検索する機能はまだ付されていない。

③（漢文）『臺灣日日新報』

（漢文）『臺灣日日新報』（1905年～1911年）はもともと『臺灣日日新報』に入っていた漢文の紙面を増やし、独立して発行させたものである。内容は当時の台湾における社会、時勢、文芸活動など多岐にわたる。（漢文）『臺灣日日新報』の電子版は字・語の検索ができる。原版はそのまま（PDF）見られるばかりでなく、新たにコンピューターに入力され、活字化されている。

（二）学術（医学）論文集

¹ 対義的な語の存在に対応して生まれた語形の考察として、「紅海」が一時「西紅海」と呼ばれたのは、形が紅海に似ており、中国・日本にとって東にあるカリフォルニア湾が「東紅海」と呼ばれたからだという王（1993）の論考がある。

①『臺灣醫學會雜誌』

『臺灣醫學會雜誌』（1902年～1945年）は台湾における最初の医学研究の専門誌で、日本統治時期におけるもっともレベルが高く権威のある論文集でもある。日本人によって作られたもので、現在も引き続き刊行されている。コーパスになされているのは日治時期に刊行されたものにかぎる。電子版は字・語の検索ができ、原版はPDFで見られる。また、原典の一部は台湾大学医学部図書館に所蔵されており、必要に応じ、原典とあわせて確認することができる。

（三）その他

公的なもの、専門的なものなどジャンル・位相共に多彩である。以下資料名の50音順で紹介する。

①『臺法月報』

『臺法月報』（1905年～1943年）は台湾の法令・判決を紹介し、引用・考証・研究に利用するために、台湾総督府高等法院によって出版されたものである。台湾における法律史の研究に極めて重要な資料である。電子版はタイトルの検索（字・語による）ができ、原本がPDFで見られる。

②『臺灣原住民期刊論文資料庫』

『臺灣原住民期刊論文資料庫』には主に1895年～1945年間に発表された日本語の文献が入っている。具体的には『東京人類學會雜誌』、『南方土俗』、『民俗臺灣』、『人類學雜誌』、『臺灣協會會報』、『臺灣時報』など30種の、当時著名であった雑誌、新聞などである。内容としては早期の台湾における原住民の文化、生活などを含み、当時の原住民の状況が忠実に記録されているという。原典はPDFで見られるが、検索は二文字（二音節）以上の語彙によるため、一文字における検索・研究には不便である。

③『臺灣人物誌』

『臺灣人物誌』は資料名の通り、台湾（澎湖を含む）の人物に関する資料である。時代は日治時期が主である。字・語の検索ができる。

④『臺灣總督府檔案資料庫』

『臺灣總督府檔案資料庫』（1895年～1945年）には一般の公文は勿論のこと、臨時土木局、糖務局、高等林野調査委員會、臨時臺灣土地調査局、人事、地方による補助、總督府内法務部（課）、會計課の関連の資料などあわせて15062巻（冊）もある。主に次のようなものが含まれている。

資料の種類	数(巻)	年代
臺灣總督府公文類纂及びその他保存されている書類:	11,190	1895~1945
1.臺灣總督府永久保存公文類纂	6,789	1895~1933
2.臺灣總督府十五年保存公文類纂	3,226	1912~1946
3.臺灣總督府五年保存文書	88	1942~1944
4.臺灣總督府一年保存文書	4	1916~1935
5.進退原議	297	1897~1945
6.臺灣總督府法務部(課)、會計課参考書類	415	1912~1943
7.國庫補助永久保存書類	362	昭和16年度~18年度
8.税務関係の書類	9	

電子版は、字・語により直接検索することはできないが²、「文件名称」(書類のタイトル)の欄にキーワード(字・語いずれも可)を入力すると、タイトルにキーワードが含まれる文書がPDFで見られる。

⑤『臺灣日誌』(資料庫)

『臺灣日誌』(資料庫)は、1895年~1945年の間に各種新聞(官報と民間の新聞)、雑誌、書籍などに掲載された記事をあわせて作られた総合的な年表のコーパスである。原典資料の種類は50種を超えているという。字・語の検索ができる。

⑥『日文舊籍臺灣文獻聯合目録』

『日文舊籍臺灣文獻聯合目録』には国立中央圖書館臺灣分館、中央研究院中國文哲研究所圖書館、中央研究院民族社會研究所圖書館、中央研究院地球科學研究所圖書館、中央研究院人文社會科學研究所圖書館、中央研究院近代史研究所圖書館、中央研究院史語所圖書館、國史館臺灣文獻館、國立台中圖書館、台灣史料中心、台南市立圖書館、國家圖書館、東海大學圖書館、台北市文獻委員會、國立政治大學圖書館、國立臺灣大學圖書館、國立臺灣師範大學圖書館及び淡江大學圖書館などに所蔵されている1949年以前の日本語の古い典籍が含まれている。字・語の検索ができる。

² つまり、全文検索は不可である。

二、他の資料

上述した電子版のある資料以外の、台湾における日本の統治時期に重要な新聞、辞書、教科書について述べる。

(一) 新聞

①『臺灣民報』

『臺灣民報』(1923年～1930年)は唯一台湾人の手で作られた新聞である。その資料としての重要性は「日本占領時代の研究において欠かせない」、「最も大事で意義のある」資料の1つ、³とされている。「創刊詞」(1923年4月15日)に「専用平易的漢文」とあるように、記事は主に漢文で書かれている。が、日本や中国大陸のものを訳したものや、さらに日本語で書かれたものも散見される。昭和12年(1937年)4月1日に日本政府の「中国語の使用を禁止する」命令が出されたと同時に中国語記事も禁止されるようになった。『臺灣民報』で使用された言語の様子は「白話文を提唱する」主旨に基づく一方で、当時の言語使用の現実も反映していると考えられる。また、記事の内容は当時の台湾人の文化的観点、政治的主張や世界的な思潮、国際的な情勢を反映しているとされる⁴。このように、『臺灣民報』創立当時の台湾は日本の台湾統治開始から20数年を経て、清からの影響が薄くなる一方で、日本からの影響が強くなりはじめた時期であったと考えられる。ちなみに、創立当時は東京で印刷されていたが、昭和2年(1927年)7月16日からは台湾で印刷されるようになった。2006年現在『臺灣民報』はまだコーパスにされていないが、その原本は台湾中央図書館など何ヶ所の図書館に所蔵されている。復刻版(東方文化書局復刊、1974)なら、台湾大学、台湾師範大学、台北芸術大学などより多くの図書館が購入しており、比較的簡単に見られる。

(二) 辞書

日本人が台湾を統治するため作られた幾つか日本語⇄台湾語の二言語辞書は、言うまでもなく言語一特に日本語が台湾に流入された様相一における研究に大きな価値がある。そのようなものとして、『日臺小字典』(臺灣總督府民政部學務課編、1898)、『日臺新辭典』(杉房之助編、1904)、『日臺大辭典』(臺灣總督府民政部總務局學務課、1907)、『日臺小辭典』(臺灣總督府編、1908)、『臺日新辭書』(東方孝義、1931)、『臺日大辭典』(臺灣總督府、1931～32)と『臺日小辭典』(臺灣總督府、1932)などがあげられる。いずれも台湾大学付属図書館に所蔵されており、予約すれば原本の使用が可能である。ちなみに、『中国語辞典集成』(六角恒廣編、2003)には『日臺新辭典』(1904)と『日臺小辭典』(1908)という2点が収録されている。

³ 張(1999)。

⁴ 張(1999)。

また、『日華合璧辭典』(梅村美誠、1913)、『漢字索引日華大字典(再版)』(服部操、1926)、『日華辭典(再版)』(金秉藩・武田欣三、1930)、『假名漢字日華兩用辭典(五版)』(周融・周萍、1936)、『井上ポケット日華辭典(十五版)』(井上翠、1939)、『日華大辭典』(包象寅・宮島吉敏・平岡龍城・張廷彦、1936~1938)、『日華學生辭典』(岩井武男著・陳文彬校閲、1941)、『日華假名漢字兩用辭典(十四版)』(周莊萍、1943)など第2次大戦期に日本または中国大陸で刊行された日華辞書も台湾の幾つかの図書館に見られる。中には、戦後台湾で刊行された日華辞書に大きく影響を与えたものも含まれる⁵。これらの辞書については、日本統治期の台湾にどのような影響を与えたか、今後さらに深く掘り下げる必要がある。

(三) 教科書

日本統治時期に臺灣總督府が出した多数の『公学校用国語読本』が、『臺灣教科用書国民読本』(第一期1901年~1903年、第二期1913年~1914年、1923年~1926年、第四期1937年~1942年)として南天出版によって2003年に復刻され、台湾大学付属図書館をはじめとして、数多くの図書館に所蔵されている。よって、その利用はかなり便利になっている。

第2時世界大戦期には、台湾だけでなく、日本や韓国でも多くの日本語教科書が刊行された。このような日本語教科書の所在については前田(2005)が詳しい。

三、おわりに

台湾は半世紀にもわたる日本の統治時期に、“日本語”と“中国語(文章の漢文と方言である台湾語を含め)”との全面“交流”の場となった。公的な場面で統治国の言語である日本語が用いられたのは当然のことであるが、実際には現実に即した「公的な漢文版」の資料も少なからず刊行されていた。中国語における日本語借用語の研究において、たとえば日本語そのもの(語または表現など)がいつ頃台湾(中国語言語社会)に入ったか、または中国語の資料に使用されたのか、などの立証に、本文が紹介した資料は大いに貢献すると思われる。

参考文献

- 王敏東(1993)「意識された外国地名について—「紅海」を中心に—」『国語語彙史の研究』十三
- 沈国威(1994)『近代日中語彙交流史—新漢語の生成と受容』笠間書院
- 許佩賢(1996)「從戦争期教科書看殖民地「少國民」的塑造」『臺灣風物』46:1
- 張圍東(1999)「日據時代臺灣報紙小史」『國立中央圖書館臺灣分館館刊』5卷第3期

⁵ 何(2006)。

- 陳力衛（2001）『和製漢語の形成とその展開』汲古書院
- 吳文星（2003）「期待日治時期台灣殖民教育史研究之深化一代序」『日治時期臺灣公學校與國民學校日語讀本』，南天書局
- 周婉窈・許佩賢（2003）「台灣公學校制度、教科和教科書總說」『臺灣風物』53:4
- 六角恒廣編（2003）『中国語辞典集成』（復刻版東京），不二出版
- 中田敏夫（2004）「近代語資料としての台湾総督府編纂『台湾教科用書国民読本』」，2004年度近代語研究会春季発表大会
- 王敏東・許巍鐘（2005a）「「扁桃腺」という言葉の成立について 付：関連語彙にも触れながら」『国語語彙史の研究』二十四
- 王敏東・許巍鐘（2005b）「新漢語「甲状腺」の成立について一付：関連の語にも触れながら一」，国際シンポジウム比較語彙研究Ⅷ・語彙研究セミナーⅤ，台北
- 前田均（2005）『日本語教科書目録集成』（平成14年度～平成16年度科学研究費補助金「第2次大戦期 興亜院の日本語教育に関する調査研究」研究成果報告書 別冊）
- 王敏東（2006）「新漢語の中日交流について一公衆衛生に関する幾つかの名称が台湾における使用状況を中心として一」，漢字訳語と漢字文化諸言語の近代語彙の形成，ソウル
- 王敏東・蘇仁亮（2006）「從「瘟疫」/「黒死病」到「鼠疫」—中日疾病名稱考源—」『或問』11
- 何易修（2006）『戦前日華辭典的研究』銘傳大學應用日語學系專題研究報告（王敏東指導）
- 田中牧郎（2006）「新語の普及と語彙の更新」『言語』Vel.35・11